

Partial Translation of JP63-090521 (Ref. 5)

Title of the invention: PRODUCTION OF AMPHOLYTIC POLYMER PARTICLE

Publication No.: JP63-090521

Publication Date: April 21, 1988

Filing No.: JP61-236692

Filing Date: October 4, 1986

Applicant: NIPPON ZEON CO.

Claim 1

A method of preparing an ampholytic polymer particle prepared by dissolving a monomer mixture comprising (1) an ethylenic unsaturated amine monomer, (2) an ethylenic unsaturated carboxylic acid monomer and (3) a nonionic ethylenic unsaturated amide monomer in a lower alcohol (the amount of (1)+(2) is at least 30 mol%) without a dispersant, and adding a radical polymerization initiator to the mixture to polymerize the mixture without a dispersant.

ABSTRACT

PURPOSE: To obtain the ampholytic polymer having a low impurity content and suitable for fiber, etc., by carrying out the radical polymerization of an ethylenic unsaturated amine with a specific amount of unsaturated carboxylic acid and a nonionic unsaturated amide in a lower alcohol.

Notes:

An ethylenic unsaturated amine monomer (1) is represented by the following formula:

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭63-90521

⑬ Int.Cl.⁴

C 08 F 220/34
2/06
216/14
220/04
220/54
220/60

識別記号

厅内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)4月21日

MMR 8620-4J
MAX 7224-4J
MKZ 8620-4J
MLR 8620-4J
MNC 8620-4J
MNH 8620-4J

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 両性重合体粒子の製造方法

⑯ 特願 昭61-236692

⑰ 出願 昭61(1986)10月4日

特許法第30条第1項適用 昭和61年9月20日 社団法人日本化学会発行の第39回コロイドおよび界面化学討論会講演要旨集に発表

⑱ 発明者 川口 春馬 神奈川県横浜市旭区中沢町86-43

⑲ 発明者 野尻 法夫 東京都目黒区八雲4-5-14

⑳ 発明者 大塚 保治 東京都杉並区高井戸東3-23-13

㉑ 出願人 日本ゼオン株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号

明細書

1. 発明の名称

両性重合体粒子の製造方法

2. 特許請求の範囲

エチレン系不飽和アミン単量体(1)、エチレン系不飽和カルボン酸単量体(2)及びノニオン性エチレン系不飽和アミド単量体(3)を含む単量体混合物をラジカル重合開始剤を用いて、前記各単量体を溶解する低級アルコール中で分散剤を使用せずに重合するに際し、該単量体混合物中の単量体(2)及び単量体(3)の合計量が少なくとも30モル%であることを特徴とする両性重合体粒子の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は両性重合体粒子の製造方法に関するもので、さらに詳しくは不純分含量の少ない両性重合体を粒子状で得る方法に関するものである。

液相重合法あるいは逆相懸濁重合法が知られているが、水溶性重合では重合中の粒度の上昇により重合熱の除去が困難になるためモノマー濃度が上げられないばかりか、乾燥、粉碎が困難という欠点を有している。また、単量体混合物の水溶液を親水性溶剤に分散、懸濁させた状態で重合を行なう、いわゆる逆相懸濁重合によつても粒子状重合体を得ることができると、油溶性界面活性剤が用いられるため純粋な重合体を得るために後処理工程が複雑になることはさけることができない。更に、重合体を粒子状で得るためには、共沸脱水により重合体から水分を除去するなど乾燥に特殊な方法が必要となる。また重合体粒子中に単量体が残留する場合にはいずれの重合法においても残留単量体の除去は容易でない。

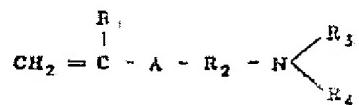
本発明の目的は前記の欠点のない両性重合体粒子の製造方法の提供にある。

(問題点を解決するための手段)

ノニオン性エチレン系不飽和アミド単量体(3)を含む単量体混合物をラジカル重合開始剤を用いて、前記各単量体を溶解する低級アルコール中で分散剤を使用せずに重合するに際し、該単量体混合物中の単量体(2)及び単量体(3)の合計量が少なくとも30モル%であることを特徴とする両性重合体粒子の製造方法を用いることによって達せられる。

本発明の特徴は親水性重合体粒子を得るに際し、油溶性界面活性剤等の分散剤を用いることなく単量体混合物を重合せしめ、微粒子状で重合体を製造することであり、重合体粒子中には未反応の単量体が殆んど残らないため、従来公知の重合方法に比べて極めて工程が簡略化される利点がある。

本発明で使用されるエチレン系不飽和アミン単量体(1)は一式



(式中 R₁ は H 又はメチル基、 R₂ は C₁ ~ C₁₂ のアルキレン基、 R₃ 及び R₄ は H 又は C₁ ~ C₁₂

単量体は 1 または 2 種以上組合わせて使用される。

本発明で使用されるエチレン系不飽和カルボン酸単量体(2)としてはアクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、ケイ皮酸、イタコン酸、フマル酸、マレイン酸、オレントリカルボン酸、3-ブテン酸、4-ブテン酸などの不飽和カルボン酸；イタコン酸のエチルエステル、フマル酸モノアカルエスチル、及びマレイン酸モノアカルエスチルなどの不飽和カルボン酸のモノアカルキルエスチルなどが挙げられ、1 種または 2 種以上組合わせて使用される。これらの単量体は N 塩、 K 塩等のアルカリ性塩として、あるいはアンモニウム塩として使用してもよい。

本発明で使用されるノニオン性エチレン系不飽和アミド(3)としては、アクリルアミド、メタクリルアミド、シアセトンアクリルアミド、N-ヒドロキシメタルアクリルアミドなどが挙げら

る。アルキル基、A は - C = O - 、 - C = NH - 又は - O - を表わす)

で表わされる単量体であり、例えば

メチルアミノエチル(メタ)アクリレート、1-ブチルアミノエチル(メタ)アクリレート、ジメチルアミノエチル(メタ)アクリレート、ジメチルアミノプロピル(メタ)アクリレート、ジエチルアミノエチル(メタ)アクリレート、ジブチルアミノエチル(メタ)アクリレートなどのエチレン系不飽和カルボン酸のアミノアルキルエスチル；メチルアミノエチル(メタ)アクリルアミド、ジメチルアミノエチル(メタ)アクリルアミド、ジメチルアミノプロピル(メタ)アクリルアミドなどのエチレン系不飽和カルボン酸のアミノアルキルアミド；アミノエチルビニルエーテル、メチルアミノエチルビニルエーテル、ジメチルアミノエチルビニルエーテルなどのアミノアルキルビニルエーテルが挙げられる。またこれらアミン単量体を 4 段化したものも使用できる。これらの

ミドである。

本発明においては上記単量体(1)、(2)及び(3)の混合物中の単量体(2)及び(3)の合計量が 30 モル%以上であることが必要で、30 モル%未満では良好な粒子状の重合体が得られない。好ましくは 50 モル%以上である。単量体(1)及び単量体(2)の使用量は両性重合体の使用目的に応じて適宜決められ、本発明においては使用量は特に制限されない。通常単量体(1)対単量体(2)の使用割合は 20 ~ 80 モル%対 80 ~ 20 モル%である。さらに本発明においては単量体(1)~(3)以外にこれらと共に重合可能な単量体を重合体が粒子状で得られる範囲内で使用することができる。

両性重合体を重合により粒子状で得るために、前記の単量体と共に重合溶媒として前記各単量体を溶解する低級アルコールを使用することが不可欠である。本発明で使用される低級アルコールとしてはメチルアルコール、エチルアルコ

合物を過量の～50重量%、好ましくは10～40重量%の量となる様に溶解し、ラジカル重合開始剤を用いて重合を行うことによって製造される。重合に際しては分散剤を使用する必要がないことも本発明の特徴である。

本発明で用いられるラジカル重合開始剤として
は従来より一般的のアゾ系化合物、有機過酸化物等
が用いられた。例えはアゾ化合物としては 2,2'-ア
ゾビスイソブチロニトリル、2,2'-アゾビス(2-
-メチル-1-ブチロニトリル等を挙げることができ、
有機過酸化物としてはアセチルバーオキサイド、
プロピオニルバーオキサイド、イソアツリルバ
ー-オキサイド等を挙げができるが、これらを適宜組合せ
て用いてもよく、要は重合温度で用い
てあればよい。使用量も特に制限されず、改
善の種類によって異なるが通常は单
量体混合率 0.0 質量部当り 0.005 ~ 5 質量部
の割合で用いられる。また重合温度は用いる溶媒
の種類、ラジカル開始剤の種類によって異なるが
通常 20 ~ 0.0 ℃ の範囲であることが望ましい。

累置換して
クリルア
(MAAと
名)を第
溶解させ、
込み、次に
ブチロニト
器に加えた
間重合を行
カンテー
重合体を
減圧乾燥す
。別にジメチルアミノプロピルア
DMAPAAと略する)メタクリル酸
)、アクリルアミド(AAMと略す
示す直達(例)をエチルアルコールに
量99%としたものを反応器に仕
アルアルコール1タにアセビスイン
0.05gを溶解して攪拌中の反応
反応器を60℃恒温槽に浸し、6時
った。直合後重合体を沈殿させ、テ
ンによりエチルアルコール上澄相と
分離した。直合体粒子は60℃で
。直合の結果を第1表に併記した。

重合終了後溶過あるいはテカンテーション等により粒子あるいは粉体状の両性重合体が溶媒より分離される。得られた重合体粒子は乾燥することにより、未反応の单量体がほとんど存在しない純度の極めて高い重合体粒子となる。

本発明の両性重合体は使用する単量体中に架橋性单量体が存在しなければ水溶性重合体であり、界面活性剤、分散剤、石油回収助剤、繊維、紙加工処理剤等として使用することができる。また、単量体混合物中に、例えばメチレンビス(メタ)アクリルアミド、エチレングリコールジ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパントリメタクリレートなどの架橋性单量体を存在させた場合には重合体は水不溶性となり、吸水性重合体としての使用が可能となる。

(表二例)

以下に実施例により本発明を具体的に説明する。

实施例 1

攪拌翼、冷却用コンデンサー、空氣ガス導入管、温度計を付した20.0 lの反応器を予め十分に空

卷之三

測定番号 体	本 游 明 钱				
	1	2	3	4	5
YUARAA	8.5.9 (75モル%)	7.8.9 (65モル%)	7.7.6 (65モル%)	6.6.6 (50モル%)	1.0.1 (5モル%)
MAA	0.6.3 (10モル%)	1.0.0 (15モル%)	1.9.7 (30モル%)	1.8.3 (25モル%)	1.6.6 (15モル%)
AMM	0.7.8 (15モル%)	1.1.0 (20モル%)	0.2.7 (5モル%)	1.5.1 (25モル%)	7.3.3 (80モル%)
体の形態 に沿解	エチルアルコール	粒子状	粒子状	粒子状	粒子状

実施例 2

実施例 1 と同様の処方でジメチルアミノエチルメタクリレート (DMA と略す)、アクリル酸 (AA と略す)、アクリルアミド (AAM) を共重合させ第 2 表記上に結果を得た。

表 2 試験

実験番号 单量体	比	本 常 明 晴				粒子状
		6	7	8	9	
(1) DMA	8.70 (75モル%)	8.03 (65モル%)	8.02 (65モル%)	6.87 (50モル%)	1.04 (5モル%)	
(2) AA	0.53 (10モル%)	0.85 (15モル%)	1.70 (30モル%)	1.58 (25モル%)	1.43 (15モル%)	
(3) AAM	0.79 (15モル%)	1.12 (20モル%)	0.28 (5モル%)	1.55 (25モル%)	7.63 (80モル%)	
		エチアルコール に溶解	粒子状	粒子状	粒子状	

実施例 3

実施例 1 と同様の反応器にジメチルアミノエチルメタクリレート 1.4.7.3g、アクリル酸 4.07g、アクリルアミド 1.17g、メチレンビスアクリルアミド 0.9g をエチルアルコール 79g に溶解させ、これを仕込み、次いでアソビスイソブチロニトリル 0.05g をエチルアルコール 1g に溶解させ、溶液中の反応器に加えた。反応器を 60 度恒温槽に保ち、搅拌下 6 時間重合反応を行なった。重合物を分離させ、テカンテーションによりエチアルコール上澄相と重合体粒子を分離し、重合粒子を 80 度で減圧乾燥させた。得られた重合粒子は粒子状で高吸水性を有していた。